

外邦図研究 No. 13

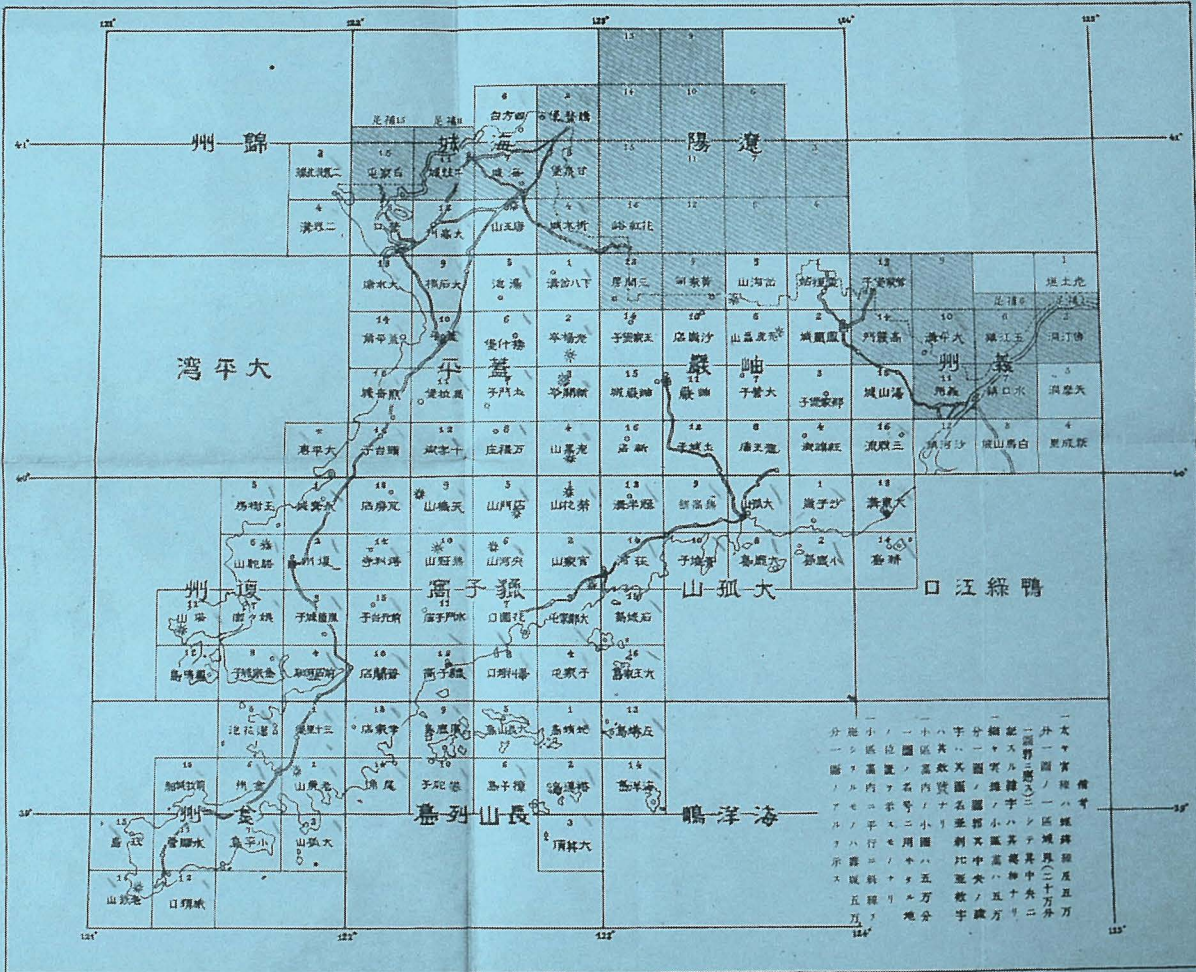
ニューズレター

令和2~4年度科学研究費補助金(基盤研究[B][1] 課題番号:20H01385)
 「東アジアにおける日清・日露戦争期の地理情報の収集と活用」
 研究成果中間報告書(令和3年度の交付金により刊行)

表 覧 一 圖 一 分 万 五 嶋 半 東 遼

秘

明治二十八年製版同三十七年五月修正



遼東半島五万分一圖一覽表(1895年製版、1904年5月修正、29.0×46.0cm、防衛省防衛研究所蔵小山史料、JACAR: C13010123400)

本図は日露戦争初期(1894年5月)の遼東半島に関する地図の準備状況を描くもので、日清戦争に際して派遣された第一次臨時測図部の測図による5万分の1図ならびにロシア製8万4千分の1図より縮製した露版5万分の1図のカバー範囲を図示する。北方の斜線部分が後者にあたる。このロシア製図は、1904年5月はじめの鴨緑江渡河作戦に際し戦死したロシア軍将校の所持品から発見されたものと考えられる。これらの図は参照することが容易でなかったが、アジア歴史資料センターが画像を公開している小山史料(陸軍将校の小山秋作[1862-1927]旧蔵)でかなりの部分の画像を見ることが出来る。日露戦争の初期に日本軍が利用できた地図の範囲を示す図として、本図の意義は大きい。なお一部経緯線で区切られたのは日清戦争期までに作成された清国二十万分一図の図郭を示すが、上記の2種類の5万分の1図の成果をもとに、一部の図名を変えて東亞二十万分一図が整備された。これ以外に利用できた図には、範囲が限られているが、日清戦争期に戦史用に作製された2万分の1図があり、このうちとくに「旅順口近傍圖」全6図幅は、日露戦争の旅順包囲戦で活用された(本誌12号所収「日清戦争に際し戦史用に作製された2万分の1地形図」参照)。

外邦図研究グループ

大阪大学大学院文学研究科人文地理学教室 気付
 〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町1-5
<http://www.let.osaka-u.ac.jp/geography/gaihouzu/>

2022年3月